

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 66	福山市立常金丸小学校
	最終更新日	2025年（令和7年）2月 1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
・小学校も中学校も元気大賞や文部科学大臣表彰を受賞するなど、良く頑張っている。目指すところも良くわかる。良くやってもらっている。 ・キャリア教育に様々に取り組みまれ、子どもの生活の一部になったと思う。来年度に繋げて欲しい。 ・各校とも、目標を立てて、地域と1つになって取り組まれている素晴らしい。	・小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。 ・全国調査質問紙の主体的・対話的で深い学びに関する項目の肯定的評価は5校とも良好である。 ・体育委員会が企画・立案の体力づくりイベント等の実施により、「運動が好き」「進んで体力向上を図った」と答える子どもが増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。
		中学校区として統一した取組等	・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	チャレンジ& チェンジする力	自己理解力	自己表現力	
自分の夢の実現に向けてたくましく生きていく生徒、次代の新市や日本、世界を担う生徒を育成して、新市町の皆さんから応援される学校づくりを推し進める。		めざす 子ども像	低 学 年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。
学校教育目標			中学 年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現することができる。
立志・貢献・郷土愛			高学 年	活動をふり返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
現 状						
○ 国の学力調査からみた基礎的な学力や学習習慣は概ね身に付いている。しかし、学年差、教科差、観点差がある。						
○ 体力テスト 2019 年の結果で国県の平均を超えている種目の割合が 41.7%であったことから体力づくり、外遊び等の取組を進め 2023 年度は 80.2%まで伸びた。						
○ 児童の自己肯定感が 2022 年度に(68.1%)であったことから教員で「ほめる」ことの推奨や児童会の「あいさつ名人」の取組、縦割り班活動などのかかわりを通して少しずつ「認められている」というアンケート結果に表れてきている。(90.5%)						
○ 地域の方々が組織的に学校に関わってくださり「総合」4 年生福祉学習には「福祉を高める会」「交流館」から、5 年生環境学習には「チーム青木」から、6 年生地域伝統を学ぶには「菊づくり名人」「金名の郷頭・権現古墳群を守る会」からの講師による学習ができています。						
○ 常金中学校の閉校、新新市中央中学校への再編に伴い 1 小 1 中校区から、4 小 1 中の中学校校区となった。また、2024 年度から交流館との一体型の新校舎に移転したところである。						
		研究	テーマ	「新しい学校で自分を表現できる子どもを伸ばす」 ～自分の言葉で思いや考えを表現する活動を通して～		
			内容等	自分の言葉で思いや考えを伝える力を育てる授業づくり ・各学年でつけるべき力を意識した単元・授業づくり ・児童が学習課題を設定できる単元・授業づくり ・思いや考えを伝え合う場の工夫		
		めざす授業の姿		自ら課題を見つけ思いや考えを伝え合い、友だちと協働して学ぶことがおもしろいと感じる授業 「やってみたい」「なぜだろう」「わかった」「できた」「もっとやってみたい」		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立常金丸小学校

年 目	中期経営目 標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)													
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策									
4	子どもが学 びに向かう 力、学び続け る力を育成 する。	★	見 直 し	課題解決に向け て、自分なりの 方法で取組み、 改善策を考える ことができる児 童を育成する。 〈チャレンジ&チェ ンジする力〉	・課題を見つけ、 自らの目標に向 けて、様々な方法 で学びを深める 授業づくりに取 り組む。 ・課題意識をもっ て様々なことに 積極的に挑戦さ せ、ふり返りを行 う。	・学ぶことが面白いと感じ る児童を 85%以上 にする。 ・「できないことが前よ りできるようになっ た」と感じる児童を90%以 上にする。 ・体力テスト県平均以上 の項目を80%以上にす る。	□学ぶことが面白いと感じて いる児童は、92%である。 □目標や課題意識を持って取 り組み、ふり返りを行い、達成 感を感じている児童は、97.4 %である。 □国平均を上回った項目数 <table><tr><td>男 子</td><td>35/48</td><td>73%</td></tr><tr><td>女 子</td><td>36/48</td><td>75%</td></tr><tr><td>全 体</td><td>71/96</td><td>74%</td></tr></table>	男 子	35/48	73%	女 子	36/48	75%	全 体	71/96	74%	3	3	・児童が「やってみ たい。わかった。でき た。」という実感が持 てるような授業にする ために、教材研究を 全職員で短時間でも 定期的に行い、「みる みるみせる授業」で 実践を交流してい く。 ・児童の挑戦や取組 を適切に見取って 職員が評価をし たり、児童同士の 相互評価を取り入 れたりしていく。 ・授業始めに、体 育館や運動場で できる苦手項目 を主とするサー キットトレーニング を取り入れ、運 動の機会を増やす。	□児童アンケートでは、 93.6%であった。 □できないことが前より できるようになったと 感じている児童は、 98.5%であった。 □課題であった「握 力」と「シャトルラン」 を重点的に取組み、 全国平均以上の項目 は、82%まで伸びた。 ◎児童が、自分の課 題を認識し、目標を 設定して、様々な 挑戦をしたり、解 決方法を選んだり して取り組み、児 童自身が課題解決 や目標達成ができて いると感じている。	4	4	4	・児童が自ら課題 を見つけ、様々な方 法で解決できるよ うな授業をいかに 仕組むか、教材研 究を継続して取組 み、実践する。 ・様々な取組にお いて、児童自身に 目標を明確に持た せ、挑戦すること とふり返りを継続 することで、自分 の成長を感じられ るようにする。 ・朝の20秒体づく りと体育での補強 運動を継続する。
				男 子	35/48	73%																		
				女 子	36/48	75%																		
全 体	71/96	74%																						
見 直 し	夢や目標に向け 、自己の良さを 伸ばそうとする 児童を育成する。 〈自己理解力〉	・児童の言葉や気 付きでつなぐ授 業づくりや縦わ り班活動での異 学年交流を推進 する。	・自分のよさが認め られていると感じ る児童を 85%以上 にする。	□授業や縦割り班活 動を通して自分の 良さが認められて いると感じている 児童は、87.3% である。	3	3	・縦割り班活動で、 児童の頑張りを 認め、児童同士 で互いに良いと ころを褒める機 会を増やす。	□児童の肯定的評 価は、93.4%であ った。 ◎意図的な縦割り 班活動を仕組み、 異学年での交流 が増え、かわり の中で自己肯定 感も高まった。	4	4	4	・肯定的評価の 低い児童を把握 し、職員間で意 識して肯定的な 声かけをしてい く。												
継 続	教職員のやりが い・充実感を高 める。	・教職員の日々の 業務での気付き やアイデアを取 り入れ、全員が 業務改善・授業 改善の取組に参 加する。	・仕事にやりがい・ 充実感がある教 職員を 100%に する。	□アンケート結果 は、100%肯定的 評価であった。 □定期的にお互 いの授業を観察 して交流する機 会を設けた。	3	3	・主任の業務量に 偏重がみられる ので、主任から 各担当へ任せる などとして、平 準化を図り、全 員で業務改善・ 授業改善に取り 組む。	□教職員の肯定的 評価は、100%で あった。 ◎行事や分掌、授 業作り等につ いて、職員間で フォローしながら 、協働的に業務 を行うことで、 肯定的評価につ ながっている。	3	3	3	・新しい取組や挑 戦をフォローし たり、色々な意 見を反映させて 既存の取組をブ ラッシュアップ したりすること で業務の平準 化を図る。												
4	地域や地元 企業と連携 したキャリア 教育を推進 する。	★	見 直 し	自分の思いや考 えを多様な表現 方法を使って説 明できる児童を 育成する。 〈自己表現力〉	・交流館と連携し て地域、地元企 業との授業等に 取り組み、様々 な方法で自分の 考えや思いを伝 え合う活動や場 を設定する。	・自分の学びをふ り返り、自分の 考えや思いを表 現できる児童を 85%以上にす る。	□自分の学びにつ いて考えや思い を表現している という児童は、 87.6%である。	3	3	・「表現すること」 について、自分 の考えや思いを 伝え合う場を 効果的に設定す るとともに、そ れに対して、自 分の学びがどう だったかふり返 らせ、さらに表 現させる。	□児童アンケートで は、94.3%であ った。 ◎授業や行事を通 して、ふり返り を様々な方法で 行い、書いたり 発表したりして 、自分の思いや 考えを表現する ことができるよ うになってきた。	4	3	3	・表現する内容 について、何を どのように表現 できればよいか 具体的な内容や 方法を紹介し たり、交流し たりしてレベル アップしてい く。									
[プロセス評価の評価基準]																								
評価点	評価基準					[達成評価の評価基準]					[総合評価の評価基準]													
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。					5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。					5	100%以上の達成度			十分に目標を達成できた。								
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。					4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。					4	80%以上100%未満の達成度			概ね目標を達成できた。								
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。					3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。					3	60%以上80%未満の達成度			ある程度目標を達成できた。								
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。					2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。					2	40%以上60%未満の達成度			あまり目標を達成できなかった。								
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。					1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。					1	40%未満の達成度			目標を達成できなかった。								